

ウエルハーネスだより



190号

理事長からの言葉

すっかり春めいてきました。

桜が満開になるのも近いようです。世の中、ウクライナ問題、電力不足の問題等予期しないことが起きています。予断を許さない状況です。

また、新型コロナウイルスのまん延防止重点措置が解除されました。しかしながら、高齢者施設で大規模感染が多発している現状から、現在の面会制限を当分の間、続けさせていただきます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、先日の朝日新聞に「入居者3人に職員1人」としている介護施設の人員配置基準を緩和する検討に入ったという記事が載っていました。

政府は2022年度に介護ロボットなどを活用した実証実験に取り組み、生産性の向上と人手に関わるデータを集める方針で。介護事業者から「4人に1人」とする案も提示される中、業界には質の低下や職員の負担増への懸念が広がっている。

ベッドから車いすに移るのを助ける介護ロボットや洗濯や配膳といった補助的な仕事を担う介護助手を活用する。業務の生産性、ケアの質の確保、職員の働き方などへの影響を調べる考え。すでに実証中のセンサーを使った夜間の見守りも対象施設を広げる。24年度には3年に一度の介護報酬の改定が控える。これに向けて方向性を検討していく。

今回の実証で政府が参考に行っているのが、全国で有料老人ホームなどを展開する介護事業大手「SOMPO ケア」の取り組みだ。心拍や呼吸数などを測れるセンサーを使って夜間の見守りをしたり、日々の食事や脈拍など身体の状態を記録したデータをもとにケア内容を考えたり、介護にかかった時間を分析しながら自立支援に繋げたりしている。同社は、こうした技術などを生かせば、介護付き有料老人ホームの場合、20年12月時点の業務量の約1割までを抑え、補助で置く職員をのぞき「実質4対1」を達成できるという。

上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL：048-782-0575
FAX：048-782-0590
令和4年3月25日発行

背景にあるのが、厳しい介護の人手不足だ。介護人材は団塊の世代が全員75歳以上になる25年度には約32万人が、高齢者数がほぼピークとなる40年度には約69万人が不足するとされる。同社は「4対1」の人員配置であれば現状の2倍のマンパワーが創出でき、25年度の不足分を補えるとみている。

だが、特養などが加盟する全国老人福祉施設協議会は、限られた人材の中で介護ロボットやITを使った生産性向上は必要としつつ、「現状では配置基準の緩和は困難」との認識を示した。食事や排せつを含めて生活すべてに介助が必要な人もいる。職員は介助業務だけでなく、施設の防災や感染症対策などの研修を受ける必要がある。有給休暇の取得なども考慮しないといけない。実際には「2対1」の配置を前提に人員を確保しないと現場は回せない。「緩和は丁寧で慎重な議論が必要。現時点では想像できない」と話す。日本介護福祉士会も「新たな業務負担になったり、利用者の変化に気づきにくくなったりすることはないか」との疑問を提示した。

これからの話でしょうけれど、施設の種類によって利用者の状態が異なり、職員の動きが全く違ってきます。一律に緩和を進めるのは無理があるのではと思います。また事業者側も「足りない」のは何が足りないのかを明確にしないといけないかなと思います。全く人手が足りないのか、自立支援の介護のために足りないか等を。でないと介護の質の議論が進まないと思います。

2～3月の行事

特養では、ユニット毎にひな祭りのレクやお茶会を行いました。また、誕生日にプレゼントやケーキなどを召し上がって頂きお祝いしました。

デイでは、給水スポンジや桜の挿し枝を使って置物作りを行いました。また、苺やバナナ、スポンジケーキをホワイトチョコにくぐらせて、チョコフォンデュを楽しまれました。

3～4月の予定

4/1(金)は、施設の開設17年目を迎えます。開設記念日献立として昼食に「桜ちらし・すまし汁・春野菜のかき揚げ・マグロの刺身・筑前煮・菜の花のマヨネーズ和え・杏仁フルーツ」を召し上がって頂きます。

特養では、調理レクや誕生日会をユニット毎に考えています。

デイでは、春の習字や桜カップトーナメントゲームなどを行います。また、天候等に合わせて、桜のお花見を計画しています。

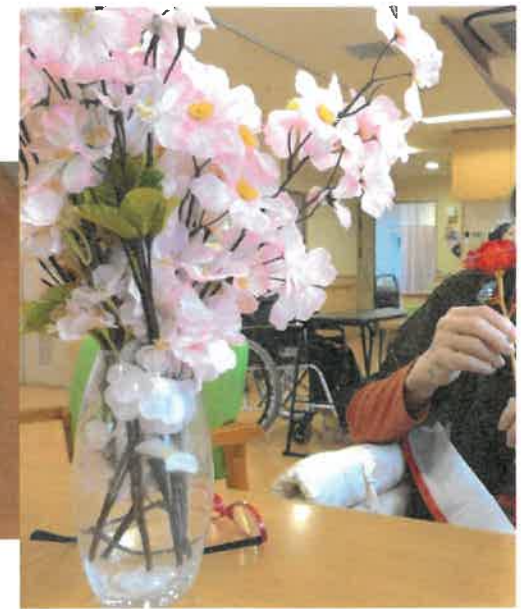




デイ 桜の置物作り



特養 ひな祭り



デイ ホワイトチョコ
フォンデュ作り



ひな祭りメニュー



春分の日メニュー



特養
誕生日会

